



7月 1日 撮影



7月 22日 撮影



上7月 25日 下7月 27日 撮影



2008年 (H20年)

有機JAS ジャガイモ

きたあかり

- 4月 8日 種芋消毒・浴光 (ニンニク 200 倍液)
- 5月 5日 (乳酸菌+堆肥液) 15 リットル 80 倍 1200 リットル 散布
- 5月 14日 播種
- 5月 28日 萌芽間際
- 6月 11・18日 機械除草
- 6月 24日 培土 (土盛り付け)
- 6月 26日 防除 アスパラ浸漬乳酸菌液 10 リットル(200 倍)
+ 木酢 1 リットル(2000 倍) 2000 リットル
- 7月 6日 防除 乳酸菌 5 リットル+木酢 3 リットル 2000 リットル
(400 倍) (700 倍)
- 7月 16日 防除 乳酸菌 6 リットル+木酢 3 リットル 2000 リットル
(340 倍) (700 倍)
- 7月 21日 手取り除草 (疫病進入を確認)
- 7月 22日 防除 木酢 4 リットル+ニンニク 1kg 2000 リットル
(500 倍) (2000 倍)
- 7月 25日 防除 ニンニク 2kg+食酢 1.8 リットル 1800 リットル
(900 倍) (1000 倍)

7月 27日 防除 乳酸菌 6 リットル(340 倍) 2000 リットル

隣接する慣行農法の同品種のジャガイモは、さすがに農薬を使っているだけあって、JAS圃場から拡大する疫病を抑えている状態になっている。(JAS圃場と慣行圃場の間には、緩衝地帯として同品種作物を4畝栽培して別管理しています。)



7月29日 撮影

7月30日 防除 木酢4ℓ(500倍) 2000ℓ



8月1日 撮影

8月2日 防除 乳酸菌6ℓ+木酢4ℓ 2000ℓ
(340倍) (500倍)

遂に“きたあかり”は、疫病菌により全滅状態になりました。7月21日の除草作業時に疫病の発生を確認して以来2週間。いろいろと抵抗を試みましたがだめでした。40株を掘って芋の出来具合を確認したところ、収量22.5kgの内正品が13kg、屑が9.5kgでした。正品の殆どがピンポン玉位の大きさにSサイズ、またはSサイズ以下でした。



8月1日 有機JAS圃場

8月4日 防除 乳酸菌14L+木酢2L+食酢1.8L
(140倍) (1000倍) (1100倍)
2000L 散布 pHは5位

最終防除として、上記液を地面に浸みこませるつもりで散布した。